

山谷 勇平（やまや・ゆうへい）

1、プロフィール

昭和 25 年に、福田栄一主宰の「古今」に入会、「青森古今」「地中海」「氷炎」にも作品を発表。教育界でも活躍したが、41 歳で急逝した。

<生没>

1928(昭和3)年2月19日 ~ 1970(昭和45)年1月5日

<代表作>

歌集『あらくれ唄』

<青森との関わり>

旧制弘前中学卒業。県立八戸高校、国立八戸工専などで教鞭をとる。

2、作家解説

父が警察署長をしていた関係で、昭和3年2月19日、旧樺太庁真岡町で生まれる。4月に父は辞職し一家で郷里弘前に帰る。父は家業の神職に就く。昭和15年弘前中学入学、昭和22年に国学院大学予科に入学した。昭和25年、福田栄一主宰の「古今」に入会。教育界で活躍するかたわら、鎌田純一の「青森古今」、片山清美の「地中海」、奈良兵亮の「氷炎」にも作品を発表した。教職は40年から国立八戸工業高等専門学校講師となり、作歌活動も軌道に乗り、旺盛な創作力を示す。44年4月助教授に昇任、同年8月、古今歌集16編『あらくれ唄』を出版。豪快な異色の歌風を1冊の歌集に託したまま、45年1月5日急逝した。享年41歳であった。

代表作

血の色に咲きしカナの花ひとつみつめをり妻のする帝王切開
羽博きしなりのままにて交尾しつつあへぐでもなく樹上に高く
よそ者のわれを導き暖くかばひてくれし靄村逝きたり

3、資料紹介

○歌集『あらくれ唄』

図書

1969(昭和 44)年8月 10 日

190mm×130mm

序文を寄せた「古今」の福田栄一主宰は「山谷勇平の文学が『古今』にあって全くの異色であるということ。山谷勇平の人間が、私の知るかぎり、全く異質であるということである」と記している。407 首の短歌が収められている。